

市民説明会実施報告書

1 実施目的

「第3次基本構想・基本計画 中間のまとめ」について、ポスター展示を通じて、内容を市民に紹介することを目的に実施した。

2 日時及び会場

	日時	会場	中学校区
1	6/16 (金) 14 時～15 時 30分	向台コミュニティセンター	田無第四中学校区
2	6/18 (日) 10 時～11 時 30分	保谷庁舎	明保中学校区
3	6/18 (金) 14 時～15 時 30分	東伏見コミュニティセンター	柳沢中学校区
4	6/19 (月) 14 時～15 時 30分	北町コミュニティセンター	青嵐中学校区
5	6/20 (火) 18 時 30分～20 時	谷戸公民館	田無第二中学校区
6	6/21 (水) 10 時～11 時 30分	芝久保公民館	田無第三中学校区
7	6/21 (水) 18 時 30分～20 時	富士町市民集会所	保谷中学校区
8	6/22 (木) 18 時 30分～20 時	イングビル (1階行政スペース)	田無第一中学校区
9	6/24 (土) 14 時～15 時 30分	ひばりが丘公民館	ひばりが丘中学校区

3 実施形式

- (1) 「基本構想・基本計画案 中間まとめに関するポスター」(巻末資料P18～23参照)の展示及び市職員による対面形式の説明
- (2) アイデアボードに、「テーマ① エリア(圏域)について」と「テーマ② 総合計画[子ども版]について」に関するアイデア等を付箋紙に記入の上、貼付する形式で意見聴取
- (3) 来場者同士の意見交換「その場de井戸端会議」の実施

4 実施結果

	会場	来場者数	井戸端会議 参加者数	アイデアボード(意見)		アンケート 回答者数
				(エリア)	(子ども版)	
1	向台コミュニティセンター	20	4	6	10	7
2	保谷庁舎	10	7	0	1	9
3	東伏見コミュニティセンター	8	3	1	1	8
4	北町コミュニティセンター	10	0	0	3	6
5	谷戸公民館	9	6	0	0	8
6	芝久保公民館	17	6	0	3	8
7	富士町市民集会所	12	0	1	6	2
8	イングビル(1階行政スペース)	42	12	2	3	37
9	ひばりが丘公民館	17	6	2	2	9
	計	145	44	12	29	94

5 ポスター展示（ポスターセッション）

「基本構想・基本計画案 中間まとめ」に関するポスターを展示し、来場者と市職員が対話形式で個別に説明を行った。

【主な意見】

分類	意見
総合計画策定	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想は画一的な印象を受ける。 パブリックコメントが出てきていないと聞いたが、子どものころからの社会参加への教育が必要である。 市民が言ったことがどのように反映されているか見えない。 第2次総合計画などの評価をどのように行い、次期計画へどのように落とし込まれているか見えない。 市長が子ども施策に力を入れているようだが、その他のことが取り組まないように感じる。みどりの保全や将来介護が必要になってしまったときに心配である。 ゼロカーボンシティ宣言をしているが、2050年までに市が何をしたいのかが見えない。障害者、ジェンダーの問題などあるが大胆な政策を打ち出してほしい。西東京市らしさがない。ブランド化が必要。
基本目標1 みんなでつくるまち	<ul style="list-style-type: none"> 多様性についての施策が、これまでと同様の内容になっている。今の時代に合った要素（ジェンダー等）の表現をいれることはできないか。基本目標2ではヤングケアラーやGIGAスクールなどの新しい要素が含まれているが、それらと比較すると、これまでと同様と感じてしまう。 LGBTの言葉の記載がされていない。 いくつかの自治体に住んでみたが、地域の人とのつながりが希薄かなと感じている。以前住んでいたところは町の人から声を掛けられたりすることがあった。 市民、大学、企業などが一緒になって、という言葉があるが、東大農場の活用など、いろいろな人が関わって進めるべき。
基本目標2 子どもが健やかに育つまち	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが生まれてからのサービスはあるように思うが、妊娠する前の支援については無いように思う。 教員が不足している。 学校は減らすより増やすべきである。 子育てはしやすいと思う。
基本目標3 笑顔で自分らしく暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> 健康応援都市の取組をしてきたが、今後の取組の記述があまり見えない。
基本目標4 環境にやさしい持続可能なまち	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市は、都心に近いのに畑もあって、みどり・自然を感じられるところが好ましい。しかし、昔と比べると住宅が建ち、みどりが少なくなっており、心配である。 ゆっくり過ごせる公園が好きで市内の公園も何か所か行って見たが、雑草が茂っており、クモの巣も多く適切に管理されていると思えなかった。いこいの森公園はゆっくり過ごすというよりも子ども向けの遊具が置いてあり、親子がわいわい楽しんでいる雰囲気。 公園ボランティアとして活動しているが、ボランティア中に市民から公園のベンチが壊れたままと苦情を受けた。財政が厳しいことも市から説明を受けているが、使用中止などの貼り紙も破れている。 東伏見公園に土日によく行く。 文理台公園の噴水が夏にジャブジャブ池になるといい。

分類	意見
基本目標 5 安全で安心して 快適に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・はなバスや西武バスが走っていない地域に住んでいる。近所に買い物をする場所もなく不便に感じている。身近な交通手段がほしい。 ・空き家が多くなっているのを利活用してほしい。ハクビシンなどが出て心配である。
基本目標 6 活力と魅力ある まち	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の振興・起業支援が大切だと思う。 ・小平市は「プチ田舎」、東村山市は志村けんなど一押しポイントがあるが、西東京市にも西東京市といえばこれ！というものがあつたらいい。そういうものがあれば愛着も生まれやすいと思う。 ・西東京市以外に住んでいたことのある転入者に対して意見を聞くのがいいのではないかと。他市に住んでいた方に意見を聞くことにより、西東京市の良さや足りないところが分かり、西東京市の特徴や良さが見えてくるのではないかと。
エリア（圏域）に における取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を核としたまちづくりとあるが、中学校の中に施設をつくるのか。どのようなことが行われるのか想像ができない。 ・学校を核としたまちづくりで、今まで関係者以外は防犯上の観点から学校に入ることはできなかったが、急に入っていけるようになるのは驚いた。 ・私はURに住んでいるが、広場に近所の子もたちが遊びにくる。ごみを散らかしたり、高いところに登るなど危険な遊びをする。子どもにも少し意識して遊んでほしい。コミュニティのような関係性があれば良いと思うがそれもない。学校を核にしたまちづくりが、子どもも地域に参加して、遊び場の使い方について一緒に考えるようなことに繋がってほしい。
子ども インタビュー （小中学生）	<ul style="list-style-type: none"> ○よく行く場所、遊ぶ場所はどこか <ul style="list-style-type: none"> ・（団地内の）桜公園やビリビリ公園（通称） ・池（ビオトープ）でザリガニ採りをする。 ・近くに駄菓子屋がある。 ・碧山森へカブトムシを取りに行く。 ○西東京市の好きなところはどこか <ul style="list-style-type: none"> ・文理台公園やいこいの森公園、わくわく公園など、公園が多い。 ・広くて遊具もあり、いろいろな年齢の子どもが遊べる。 ・公園には池があり、ボール遊びもできる。 ・ヤギサワベースなど4軒ほどの駄菓子屋がある。 ・東伏見公園の隣にある駄菓子屋が好き。 ・練馬区よりも、商品の価格が安い。 ・緑を残したい。 ○困っていることは何か <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の集団が公園にいて、年上の子たちが公園を占領している。 ・公園の使い方が良くない子どもがいる。

6 アンケート結果（アンケート：巻末資料P24参照）

来場者に対してアンケートを実施した結果、94名から回答を得られた。

○集計結果（※無回答を除く）

① 年代（人）

～10歳	～15歳	～20歳	～25歳	～30歳	～40歳	～50歳	～60歳	～70歳	～80歳	80歳～
－	－	－	5	5	19	8	12	7	17	11

② 居住地域（人）

田無町	南町	西原町	緑町	谷戸町	北原町	向台町	芝久保町	新町
5	4	3	1	5	1	5	4	6
柳沢	東伏見	保谷町	富士町	中町	東町	泉町	住吉町	ひばりが丘
2	1	3	3	6	3	1	2	1
ひばりが丘北	栄町	北町	下保谷			市外	(在勤)	(在学)
2	1	5	1			29	23	－

③ 最寄りの中学校

中学校名	人数（人）	徒歩15分以内	徒歩15分以上
田無第一中学校	6	1	4
保谷中学校	10	4	2
田無第二中学校	4	1	1
ひばりが丘中学校	5	3	－
田無第三中学校	8	6	1
青嵐中学校	11	6	3
柳沢中学校	4	1	1
田無第四中学校	7	4	1
明保中学校	6	6	－

④ 資料のわかりやすさ（人）

わかりやすい	⇔	ふつう	⇔	わかりにくい
16	22	31	8	2

⑤ 興味を持ったパネル（複数選択可）

パネルの内容	人数（人）
策定の趣旨、総合計画とは	7
市民の関わり	15
基本理念、基本目標	9
基本目標 1	19
基本目標 2	23
基本目標 3	16
基本目標 4	13
基本目標 5	13
基本目標 6	13
施策体系	4
計画を推進するための考え方	7
エリア（圏域）における取組の推進	45

⑥ 学校を中心としたまちづくりに期待すること（複数選択可）

期待すること	人数（人）
相談機能の強化	23
コーディネート機能の充実	17
健康づくり（運動）の推進	13
社会参加の機会創出	17
年齢を問わない居場所の確保	42
その他	6

その他の意見

- ・児童、生徒を中心に、大切にしている施策。
- ・災害時の拠点。よろず相談。
- ・庁舎の分室となる機能も持たせ、そこに行けばデジタルで庁舎に行かなくても用が足りる。
- ・申請手続き等が近所でできるとよい。
- ・特色のある地域のにぎわい。
- ・市立学校に通わない子どもの家庭や学校と関わりの無い層の取組ができるとよいサービス機能だと考える。

⑦ 市民説明会をどのように知りましたか（複数選択可）

周知方法	人数（人）
5月26日市報特集号	40
市ホームページ	16
Twitter	2
LINE	11
フェイスブック	1
チラシ（市民説明会のお知らせ）	4
新聞	—
その他	22

その他の意見

- ・市からのメール。
- ・知人に聞いて。
- ・家族の誘い。
- ・当日。
- ・通りすがり。

⑧ どのような説明会であれば参加しやすいですか（複数選択可）

開催方法	人数（人）
ポスターセッション	39
講義形式の説明会	17
オンライン形式	17
ワークショップ	17
出前講座	8
その他	4

その他の意見

- ・（ポスターセッションについて、）意見を直接言える場を多数設けること。
- ・井戸端会議はよかったですと思います。
- ・質疑応答のできる形。
- ・（出前講座について、）今回のようなイメージ。
- ・動画やアニメーション、コラム。
- ・イベントと合わせて行う

○自由意見

分類	意見
<p>基本構想 基本計画</p>	<p>《基本理念》</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念にある「ともに」という言葉は市民等と一緒にという気持ちが伝わるし、「やさしさといこい」もいこいの森公園を連想でき、オリジナル色があって良いと思った。 理念としては「そのとおり」と思うことが掲げられているが、「総合計画」とはいえ「どうする」という具体的なことに触れられていないのが残念。 <p>《基本構想》</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想が抽象的であったため、具体的な話し合いやポスターで理解を深められてよかった。 基本目標から具体的な計画案が出きれていないので、意見が出しにくい。 6つの基本的な視点は好感が持てる。 <p>《基本計画・施策等》</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の総合計画、基本計画案は具体的なことでなく、あくまで理念だった。それをどう具体的な策定に表すかが問題。 施策を具体化する方策は、アクションプラン化すること。 基本計画の具体化＝各個別計画をどう市民ニーズに応えられるものにするか。重要な課題だと思う。 施策の内容や目標なども示してほしい。
<p>基本施策1 一人ひとりがいきいきと輝くまちを実現するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存の自治会・町内会マップを作る。 既存の自治会・町内会に呼びかけ、活動、情報交換会を開く。 地域協力ネットワークの加入拡大を進める。 ボトムアップで市民の意見を吸い上げ、必要な予算を組みながら、プロセスも情報公開しながら実現してほしい。 地域の課題を共有し、住民同士、住民＋行政との意見交換をしたいと思う。 行政側が縦割り参加ではなく横のつながりを期待できるような参加を希望する。 全ての世代、男女、みんなを大切に、そして市を市民だけでなく、国、都、市、市民が協力しあって解決していくことを求める。市だけで解決できないことは都や国と情報共有し、協力して進めていくことを望む。 市が国や都と協力し、何かをしようとしたとき、対等ではない、門前払いなど、何か感じるがあったとしたら、それは市民が市に感じていることと認識し、そこから行動変容につなげてほしい。その時はじめて、心地よい市と市民の協働が始まると思う。
<p>基本施策2 多様性を認め合う社会を構築するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想1について、他の分野は時代状況を踏まえたアップデートがなされていると感じられるが、多様性の分野だけ古い、弱いと感じる。ジェンダー平等、LGBTなどのキーワードを盛り込んでほしい。 多様性を認め合う社会が基本計画に入っていることは重要だと思う。そこに性的指向や性自認など性の多様性についても入れてほしい。
<p>基本施策3 市民とともに持続発展する自治体であるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> デジタルに疎いので、本当に取り残されないような施策を期待する。
<p>基本施策4 子どもがのびのびと成長するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにやさしいまちを作してほしい。

分類	意見
<p>基本施策 5 安心して子どもを産み育てるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して妊娠できる環境サポートから必要。妊娠してからがスタートではない。 ・子どもが欲しくても授からない、結婚も妊娠も様々な理由で諦める人がたくさんいる。 ・子どもが増える（増えてほしい）想定で学童クラブ増設を明記してあるのは良いこと。税込確保のための投資としても子育て環境の充実に公費を積極的に使ってほしい。 ・児童館も圏域毎に整備してほしい。 ・子どもが安心して育てていくためにも、シングルかつ精神疾患を患っているなど、困難に陥りやすい家庭に対するサポートをしてほしい。病状を理解して支援できるを理解して人材を育ててほしい。 ・待機児童が減ってきているので、民設民営化を進めるべき。 ・圏域にあわせた子育て機能の充実に望む。
<p>基本施策 7 人と地域がつながり安心して暮らすために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便やデジタル化など高齢者の抱えている悩みなどをよく受け止めて解決する努力をお願いしたい。そのことが「誰も取り残さない」「人にやさしいまち」になっていくことになるのではないかと思う。
<p>基本施策 9 暮らしの中で身近にみどりを感じるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの課題に唯一、公園に財源のことが書いてあった。大きな公園でなく、小さな公園にも財源を。 ・このままでは単なる特徴の無いまちになる。緑のある住みやすいまちを維持するべき。 ・環境問題も地球温暖化で西東京もみどりが少なくなりつつあり、農地もつぶされて住宅ばかり、他にも沢山の問題がある。
<p>基本施策 11 快適で魅力的な住みやすいまちで暮らすために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市の良さは住みやすさだと思う。 ・昭和 42 年の田無駅南口の道路計画は現状に合っていない。空気が綺麗で、みどりと暮らしの心地良い街の環境がなくなってしまう。しかも、知らない間に優先整備道路になっていて、悲しくて仕方がない。今の南口側の環境を次の世代、その次の世代へ残してほしい。 ・古い都市計画を壊す計画、今の車の数にあった道路づくりを。
<p>基本施策 13 産業が活性化して活力のあるまちになるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間に市内にいない人が多い。協働のためにももっと市内で時間を過ごせるような仕掛けが必要。働く場や飲食店、商店などにぎわいがほしい。
<p>基本施策 14 にぎわいのある魅力的なまちになるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本施策 14 の内容は「にぎわい」なのかよくわからない印象。 ・西東京のシンボルとなるような建物があるといいと思う。
<p>エリア（圏域）における取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を核とするまちづくりに期待したい。 ・学校を核にするってどういうイメージなのか。 ・学校教育と地域づくりの取組をどう進めるのか。 ・学校を核としたまちづくりがうまく機能すると良いと思う。とはいえ、育成会、ふれまち、ほっとネット、地域協力ネットワーク、コミュニティスクール と、参画するコミュニティが重なるネットワークがどんどん増えている。どう参加するかは自己責任だが、ある程度は整理されることを期待する。 ・学校を核としたまちづくりも沢山の機能を取り入れようとしているが、複合施設の設置を目指していると感じた。現在の集会施設に代わる交流機能を考えていることには賛成するが、社会教育施設の間とは区分けしてほしい。 ・中学校区を基にして地域を考えるとあるが、あまりそれにこだわらずに住民の要望に沿って考えてほしい。 ・学校を核としながら困難がある人にアウトリーチできる小さいコミュニティをつくっていくことは大事だと感じた。 ・コミュニティスクールへの市民参加については、希望する方のみ参加できるような形で配慮した方が良い。 ・子どもの周りにはたくさんの世代がいて影響しあっているのだから、どの世代も取り残してはならない。誰一人取り残さないでほしい。

分類	意見
その他	<p>《全般》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来を見据えた 10 年計画、市民のための総合計画として、十分な対応をと思う。 ・ 内容自体は適切で充実していると思うが、表題等が長く、頭にスッと入ってこない。もう少しシンプルな文章にするとより良い計画に仕上がるのではないか。 ・ 具体性が求められる。 ・ 様々な課題があると思うが全ての年代に届く計画を作ってもらいたい。子どもにやさしい、高齢者にやさしい計画を期待している。 ・ 大人も子どもも（職員も）分かりやすい計画になるとよい。 ・ 次世代の子どもたちの意見が盛り込まれた計画を策定してほしい。 ・ 第 2 次総合計画のふりかえり（総括）をふまえ、現実の市民生活の実態を兼ねた計画が必要ではないのか。 ・ 具体的な事業が見えてないままだと市民の方が自分事に考えにくいと感じた。第 2 次総合計画との違いや、効果や成果、結果などに基づいて、第 3 次総合計画にどのように活かしているか分かると、分かりやすくなると思った。 ・ とても分かりやすく書いてあり、学ぶことが多かった。知らないことを知ることができてとても良かった。 ・ 20 年前からしばらく高齢者、今は子ども子どもと言っている。どこかの世代に 1 点集中し、他の問題を放置すると、どこかにしわ寄せがいき、今のように深刻になる。 ・ 計画は見通しを設定しながら考慮されていて、よいものだと思う。これを具体化させるためにどうするかは、市の職員と市民が意見を交わしながら、進めていただきたい。 ・ “ことば”で終わらないように。ぜひお願いしたいと思う。私たちも関心を持つ必要がある。 ・ 市民（大人も子どもも）巻き込んで意見交換していて良いと思った。みんなその後の西東京市（移り変わり）が気になっていると思った。 ・ 「共助」に舵を切ったという感じ。公助も今まで民間委託したり、非正規雇用を増やしたり、弱められたことを見直すことも必要と思われる。 ・ 具体的に市の計画を出してほしい。12 月までに決めることは無理だと思う。 <p>《説明会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターセッションという形式が面白かった。 ・ ポスターがもう少し図が多いと分かりやすい。ポイントがあると良い。 ・ 子どもの意見を入れて、子ども版をつくる、というのが良いと思った。分かりやすい版もあると良い。 ・ 具体的な内容をもっと伺いたかった。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他市の市民に自慢できるようなまちになって欲しい。 ・ 子どもたちに西東京市を誇ってもらえるように。 ・ 財政が厳しい状況だが、無駄遣いが多いのでは。 ・ 字が多い。

7 アイデアボードに出された主なアイデア

アイデアボード

【テーマ】エリア（圏域）について

- ・学校の周りでこんな活動をしている！
 - ・「学校を核としたまちづくり」に期待すること
 - ・ご自身が関わること など
- みなさまのアイデアをお聞かせください！

アイデアやご意見をお手元の「ふせん」に書き込み、ボードに貼り付けてください

◎アイデアボード、アンケートにご協力いただいた方に「いこいーな」グッズをおひとつ差し上げています。

アイデアボード

【テーマ】総合計画「子ども版」について

第3次総合計画の内容を子どもたちに分かりやすく伝えるため、総合計画「子ども版」を作成する予定です。

みなさまのアイデアをお聞かせください！

アイデアやご意見をお手元の「ふせん」に書き込み、ボードに貼り付けてください

◎アイデアボード、アンケートにご協力いただいた方に「いこいーな」グッズをおひとつ差し上げています。

(1) エリア（圏域）について

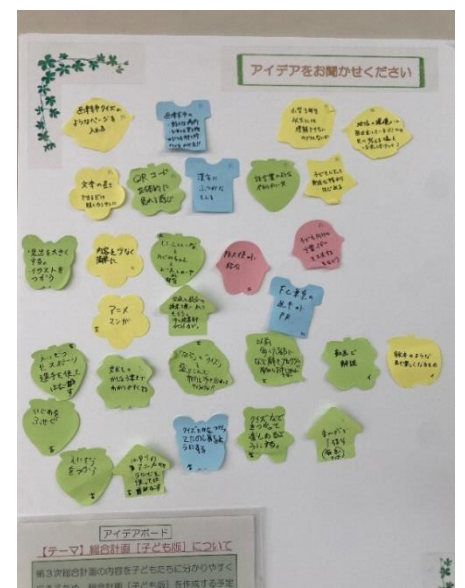
- ・近所で声をかけあえるようになってほしい。
- ・どんな年代でも立ち寄れる学校。
- ・相手に寄り添う丁寧な相談窓口として機能してほしい。
- ・人が集まって和やかに過ごせる。
- ・色々な人がほっと立ち寄れる、サロンのようなスペースが欲しい。
- ・地域で見守る体制。
- ・不登校の子どもの受け皿。
- ・資源回収
- ・災害時の黄色いハンカチ運動が、他のエリアにも広がってほしい。
- ・自治体より範囲が広くなる。まとまるのは難しいのではないかな。
- ・日常の会話ができる範囲が基本となるべき。
- ・まずはモデル的に新しい学校施設のイメージを示してほしい。



《アイデアボード「エリア（圏域）」》

(2) 総合計画「子ども版」について

- ・話し言葉などやわらかい文にする。
- ・内容や文を少なく、簡単にする。
- ・漢字にふりがなをふる。
- ・見出しと箇条書きで分かりやすくする。
- ・絵本のような、見ていて楽しくなるもの。
- ・漫画や動画、イラスト、アニメ、キャラクターなどで紹介する。
- ・いこいーなとめぐみちゃん、しーたとのーやが紹介する。
- ・PR大使やスポーツ選手（FC東京の選手など）が紹介する。
- ・クイズなどを使って楽しめるようにする。
- ・子どもにとって身近な話から始める。
- ・なぞなぞやクイズで市内を歩きまわられるように仕掛ける。
- ・以前、多摩六都科学館で謎解きプログラムに参加して面白かった。
- ・地域の環境のことなどを考え、交流できるきっかけをつくる。
- ・西東京市の好きな場所、いつも買う物、行く所などを載せる。
- ・QRコードを読み取って、立体的な表示が楽しめるようにする。
- ・学校の総合の授業を使い、知ってもらう。
- ・小学校3年生以下には理解できないのではないかな。



《アイデアボード「子ども版」》

8 「その場de井戸端会議」の実施

説明会に来場された方にその場でお声かけして、参加者が一定数集まった際に「その場de井戸端会議」を開催した。コーディネーターの進行のもと、パネルを見た感想や、気になった点について一人ずつ発表した。特に関心が高い話題については参加者同士で意見交換を行った。



《「その場de井戸端会議」の様子》

【意見交換の内容】

分類	意見
西東京市について	<ul style="list-style-type: none"> ・西東京市は市としては新しく、柔軟であると感じる。 ・可能性のある自治体だと思う。 ・人口密度が高く、人との距離が近いので、つながりが生まれる。 ・人が元気である。 ・自然と交通のバランスが良い。 ・西東京市の良さは、あとからジワジワと感じるようになる。(大人になってからわかってくる。) ・きちんと調べると、西東京市が良いところだとわかる。ここに住んでいる人は、そういった点をしっかりと調べて移り住んでいるという印象がある。
計画全般	<p>《基本構想》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本構想について、他の自治体と内容が同じなのは仕方のないことではあるが、画一的である。 ・社会情勢の変化が激しいので、基本構想から具体的なイメージしづらい。 <p>《現状（評価）・課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状と今後10年の方向について、どこかに記述があってほしい。 ・市の取組の評価・検証が不足している。 ・第2次総合計画との一番の差は何か。 ・計画で挙げられた取組が具体的にどうなったのかわからない。 <p>《方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市としての意気込みを感じるが、中身は模範的すぎる。 ・全体的によくできているがここまでは誰でもできることである。この後具体化するのが大変。 ・理想的だが、具体的なイメージはわきにくい。 ・今回の中間まとめはとっつきにくく、自分の生活との関連が分かりにくい。 ・柱が抽象的である。市民が納得できる内容が良い。 ・実現可能性というところを考えると、市民の関わりや具体性をもっと必要。 ・どのように現状や課題を拾っているのかわからない。 ・現在の社会課題は大きな問題が多いので、優先度をつけて確実に解決するのが良い。 ・高齢者や子どもにやさしい取組をしてほしい。 <p>《計画の実行性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な予算措置も大事。どの施策にどれくらいの予算を付けるのかということまで具体的に考えて公表してほしい。それくらいしっかり計画してほしい。 ・全体の項目は良いが、具体的にどう進めるのか。財源確保をする必要がある。 ・計画を実行するには関係部署との連携が必要である。 <p>《計画策定への市民参加等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の要求や現状から必要な取組が分かる。ボトムアップの体制が必要である。

分類	意見
<p>計画全般</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントできちんと市民の声を拾ってほしい。 ・市民参加などの取組をしているので、総合計画が市民の方に自分ごととして捉えてもらえるようになると良い。 ・子どもが発言した内容が具体的な施策になったりすると、次の市民参加に繋がるのではないか。 ・もっと市民参加を促進してほしい。策定の進め方、プロセスが不透明である。子どもや市民が参加しましたという事実だけを公表するのではなく、それがどこに反映されたかまで知りたい。そうでないと、ただ市民参加の機会を設けたというだけになってしまう。 ・市民参加でもらった意見は、市民の要望でもある。計画に反映せずとも解決できるものもあるので、計画策定を待たずに、スピード感を持って実現に向けて動いてほしい <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福生市は保育を全面に出しているという特徴がある。
<p>基本施策1 一人ひとりがいきいきと輝くまちを実現するために</p>	<p>《地域コミュニティ（全般）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に「あたたかいまち」なのか、疑問に思う。バラバラになってしまったと感ずることがある。 ・隣近所の人顔すらよく知らないため、震災が起きたときなどに協力しあえるか、心配である。 ・特に新しく移り住んできた若い方達には図々しくおせっかいしないとコミュニティを築くのは難しい。おせっかいをすることで繋がることのできた経験はある。 ・3年ぶりに西東京市に戻ってきた。地域の高齢化が進んでいた。高齢者は周りに頼ることを遠慮していて、人と繋がれず、より老けてしまっていると思う。 ・地域ごとのお祭りを企業等も一緒になってできると良い。 ・様々な組織、コミュニティがあるのは良いが、種類がありすぎて、何がどのようなものなのか分からなくなってしまう。 ・地域の人については、田舎のようにみんなを知っているというわけではない。 ・会わなくなると関係はどんどん希薄になっていってしまう。あえてつながりをつくっておかないといけない。 ・いざというときのためにつながりをつくっておくことは重要である。 ・地域のつながりはあると感ずる一方で、関わりが無い家庭も多い。 ・昔はご近所での立ち話があったが、今は関わりが少なくなったと感ずる。 ・昔と比べて挨拶されることが少なくなったような気がする。 ・若い世代は挨拶されることは嫌とは思わないが、自分たちも小さいころに比べて自分から挨拶しなくなったように感ずる。 ・メールなど、非対面のやり取りは便利になったと感ずる。 ・対面の方が楽しくやり取りできると感ずる。 ・趣味でのつながりについて、すでにやっている人やサークルは存在していた場合、参加したいけれどそこに飛び込んでいけない人がいるかもしれない。その人達同士が繋がれるような仕組みがあると良いのではないか。 ・ゲーム、歌、植物など趣味を通じたつながりづくりが人との関わりを生み出しやすいと思う。 <p>《既存コミュニティ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこにどのような自治会があるのか分からない。エリアのマップが公表されると良い。 ・自治会の活動が衰退したり、隣近所との関係が希薄になったりしてしまった背景として、住民の、「地域やコミュニティに対しての諦めの気持ち」があると思う。 ・昔は老人会があったが、補助金のための会計報告の大変さでなくなってしまった。 ・地縁が希薄になり、さみしく過ごす高齢者がいる。SNSのつながりが広がっている影でそういう人がいるのではないか。趣味などが無い人が取り残されてしまうため、地縁も大切にすべきである。 ・地縁は市が主導して自治会の連絡会をつくるのが近道になるのではないか。 ・どのようにこの仕組みを地域に広げるのか。PTAなども最近はオンライン化している。

分類	意見
<p>基本施策1 一人ひとりがいきいきと輝くまちを実現するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営協議会やおやじの会もある。おやじの会があることで卒業後もつながりがある。 ・自治会、町内会と市民活動団体がどう関わっていくことを望んでいるのかわからない。 ・若い世代は、自治会が何をしているのか詳しく知らない。中には少し大変そうというイメージを持っている人もいることから、入ろうと思う人があまりいないのではないかとと思う。 ・昔はごみ収集、電灯など、課題に対応しなければならなくて、自治会が本当に必要だった。 ・自治会で資源ごみの回収を行い、それによって還元されたお金を自治会でそれぞれの世帯に配ったことがある。このような、参加すると良いことがあるということを知ってもらえたら若い人にも参加してもらえきっかけになるかもしれない。 ・ご近所とは花、犬、猫などの話題で繋がっている。時として猫の排泄物などが原因で意見がぶつかることもあるが、「あそこのお花が咲いたね」などと話すきっかけになっている。 ・ご近所・エリアで不要なものを無料で交換できるフェスティバルなどができるとよいのではないか。 ・近所づきあいについては、「周りに迷惑をかけないように」という人達が多いと感じる。高齢化が進んでいる中で、少し寂しく感じる。 ・今後は地域協力ネットワーク同士の交流もしていきたい。 ・いまだに地域協力ネットワークの4団体が何なのか、何をしているのかよく知らない。加入団体の紹介や、認知度を上げるための取組をしてほしい。 <p>《新しいつながり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味やSNSを通じたつながりも多くあるので、そういったものを利用するのも良い。 ・田舎のような地域のつながりが煩わしくて東京に来る人も多い。そのため、地縁ではない新しいコミュニティづくりも大事だと思う。 ・コミュニティスクールは浸透していない。周知が不足し、名前だけが先走ってしまっている。目的まで知ってもらう必要がある。 <p>《居場所づくり・仕組みづくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇親会の場があると、実際に会って話すことで、気づくことがたくさんある。是非またこのような場をつくってほしい。 ・市民の人が立ち寄りやすい場所が地域毎にあってほしい。 ・夜も集まることができる便利な場所をつくるべきである。 ・地域の人が集まりやすい場所も、交通の便が良いところにあるのが大切である。 ・地域の住民間での繋がりが希薄だと感じている。地域の意見を伝える仕組みも無い。 ・SDGsのゴール11は、「Sustainable Cities and Communities」である。日本語訳では「住み続けられるまちづくりを」となっているが、正しくは、「持続可能なまちとコミュニティ」だと思っている。地域の関わり合いの仕組みづくりが大切であるため、その具体的な取組が必要だと考える。 <p>《情報発信》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発信をしていくことも大切である。南部と西部はFM西東京でラジオをやっている。 <p>《コロナの影響》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで市民活動やサークル活動が減ってしまった。盛り返すのは大変だが、必要なことである。 ・コロナ禍で地域での集まりが無くなったことで、一人でいる楽しさも知ってしまった。どちらの方が良いなどは無いが、周りとのつながりは薄れてしまったと感じる。 <p>《社会参画（全般）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政だけでは社会が上手く回らない世の中になってしまったのかもしれない。市民の力が必要だという状態になっているのだと思う。 ・なかなか継続して地域活動に参加してもらえない。 ・働きに出ている人が多い中で、地域、社会活動に参加するというのはハードルが高いと思う。

分類	意見
<p>基本施策1 一人ひとりがいきいきと 輝くまちを実現するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定年を過ぎても、ずっと働き続けなければ生きていけないような社会になっているのではないか。そのような状態で社会に参加する余裕はない。 ・若い世代も共働きの家庭が多く、余裕がないので社会参加ができていない。 ・定年を過ぎても働かなくてはいけないなど、現在の高齢者の状況を目の当たりにした若者は、希望を持ってなくなってしまうのではないか。 ・時間的に余裕が無く、負担感があつたとしても、地域活動への参加が少しでも楽しいものだとして一度思ってもらえれば、継続して参加してくれる人も増えるのではないか。 ・様々な地域活動があるが、どれも同じ顔ぶれである。参加している人とは繋がることのできるが、来ない人とはどのように繋がれば良いのかわからない。 ・自分も手助けが必要になるときがあるかもしれないので、余裕はないが、地域活動はしている。 ・余裕が無いけれど、自分が活動をやめたら困る人がいるので、やめたくてもやめられない。 ・高齢者でも子ども関連の取組に興味はあるが、親子向けのものが多くて関わることのできない。取組の対象以外の人も関わるような機会を設けてほしい。 ・市民参加は何度も何度も働きかけていくことが大切。一度切れるとまた繋がるのは難しい。 ・地域の人たちがまちづくりに参加していくためには新しい仕組みづくりが必要だと思う。それが今回のエリアの話だと思う。 ・市民の方々が多く参加できる仕組み（委員会、組織等）も必要ではないか。 ・自分たちで変えていこうという意識が重要である。 <p>《既存のコミュニティへの参加》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員のなり手が減少してしまっている。 ・PTAは、断れなくてずっと同じ人がやっているというケースもある。 ・PTAの活動がきっかけでその他の様々な活動への参加に繋がるということも考えられる。 ・PTAは忙しく、自分の時間も無くなってしまうが、楽しめれば、やってよかったと思える。 ・住民の当事者意識が無いと、マンションの管理組合なども理事になる人がいない。 <p>《意見の反映》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数の意見を大事にしてほしい。 ・意見の吸い上げをするときは、前もって情報提供をすることが大切。真剣に市のことを考えて出した意見でないと、ただの思いつきになってしまう。 ・市民の語り合いが大切だと思う。市民の意見を取り上げてくれないと本当の市民のためのものにならない。 ・若い人の意見も聞くことが必要である。 ・若者は分散化・個別化しており、外部や社会とのつながりが希薄である。 ・住んでいる地域に対する人々の関心が低く、諦めている雰囲気を感じる。若者のわくわくする気持ちややる気を、その地域単位で引き出すべきである。 <p>《若者の参画》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民参加を求めても、出た意見が何かに反映されないともったいない。以前、ひばりが丘の駅前の活用について、子どもたちが良い意見を出していたのに、全く反映されていなかった。それではその時の話し合いが何のために行われたのかわからない。 ・若者も納得した上で取組を進めるべきである。今後中心になっていく若者が興味を持たなくなったり諦めの気持ちを持ったりしてしまうと、社会が壊れてしまうのではないか。 ・若い世代、様々な世代が参加できるような仕組みづくりをするべき。丁寧に意見を吸い上げていくことが必要だと思う。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率ではなく、それぞれの人の生き方や考えを大事にするべき。 ・コストパフォーマンス重視の風潮があるが、コストパフォーマンスでは測れない考えや生き方がある。 ・審議会への市民応募が少ないという問題もあるのではないか。市民に関心を持ってもらえると良い。

分類	意見
<p>基本施策1 一人ひとりがいきいきと輝くまちを実現するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会への応募のハードルが高く感じる。広報も目立たない。審議会等の年間予定を市報などで前もって教えてほしい。 ・ 選挙の投票率が低いことは、市民が期待していないことが伺える。 ・ 有権者（主権者）学習が必要である。 ・ 「失われた30年」は全てに関わる問題である。
<p>基本施策2 多様性を認め合う社会を構築するために</p>	<p>《多様性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標1の基本施策2に、「多様性を認め合う～」とあるが、多くの市民が目にするところ（計画）に、ジェンダーや性の多様性について意識してもらえるワードを入れてほしい。 ・ 性的指向やセクシャリティなど、多くの方に関係する言葉（性自認等）を入れてほしい。 ・ 同和問題について市が取り組んでいるとわかると、抑止にもなる。
<p>基本施策3 市民とともに持続発展する自治体であるために</p>	<p>《行政（全般）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括支援センター、協働コミュニティ課等、関係する部署や人が横串で連携するべきである。 ・ 市は民営化を進めようとしているのか。公民館などが減ってしまわないか心配である。 ・ 市民が人として大切にされることは本当に大切であるため、行政が自助に傾きすぎるのはどうかと思う。公助の力を持続してほしい。 ・ 市が市民の声をしっかりと聞いて取組を進めてほしい。 ・ 行政の非正規雇用が増えている。そこを見直してほしい。市民に丸投げしないでほしい。 ・ 地域への参加が進むように条件を整えていくのも行政の仕事であると考え。 ・ もっと市民と一緒に考える場を設けるべきである。 ・ 社会状況にあわせて自治を成長させるのが行政である。 ・ あまり「共助」と言わないでほしいが、災害時には市民同士で助け合い、行政にはバックアップに入ってもらうという体制が必要である。 ・ 人口を安定して増やすことが必要である。 ・ 財政は非常に重要である。基本目標1に財政に関する記述があるため、ぜひ研究してほしい。 <p>《職員・体制づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員としてもそれぞれの地域の課題がわかっていない。この状態のままだと地域に入りづらく、協働しにくい。 ・ 市職員としての答えを持つべきである。市民の間に自分から入って、関わっていく必要がある。 ・ 市職員が積極的に外に出て、アウトリーチするべきである。 ・ 相手の立場に立つという視点を持つべき。 ・ 職員がすぐに異動してしまうのでその後に繋がらない。 ・ 行政の機能を維持するために、人員も含め、体制を整えるべきである。 ・ 職員の地域担当制はあり得るかもしれないが、担当する人の負担が大きく、また幅広い知識や能力が必要とされるため、厳しいのではないかと。 ・ 庁内の必要な部署に伝えるには、庁内にネットワークがある人が必要である。 ・ 計画について、「市民同士が協力しあってまちづくりをしていく」という「共助」の印象を受けたが、行政にも力を発揮してほしい。そのための体制を作ることも大切である。 <p>《情報発信・情報公開》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市からのお知らせが文字ばかりで分かりづらい。 ・ 知らせるための手立てを考え、市としてきちんと取組を実行していることを市民に示してほしい。 ・ 見てほしい情報を目立たせるなど、広報（市報）の見せ方も工夫してほしい。 ・ LINEを活用できていて良いと思う。ただ、LINEで届く情報が多すぎると思うので、受け取る情報をカスタマイズできるとさらに良い。

分類	意見
<p>基本施策3 市民とともに持続発展する自治体であるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開が大事だと思う。市長が市の状況を把握できるように、探しやすい情報公開がされると良い。 《デジタル化》 ・デジタル化が進むと、行政の役割や必要な庁舎の規模も変わるのではないかな。 ・高齢者向けのスマホやPCの使い方講座があると、高齢者も情報も受け取りやすくなる。 ・パソコンが苦手な高齢者にもやさしい情報発信方法を見つけてほしい。情報にたどり着けず取り残されてしまう。 《その他》 ・心・魂を感じられない。 ・色々やっているけれど空回りが多い。 ・市長に熱意が感じられる。これが第一歩になるのではないかな。 ・トップ（市長）がやる気になると変わってくると思う。
<p>基本施策4 子どもがのびのびと成長するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標2に子どものことが書かれているのは評価している。 ・子どもたちが市に残って、子どもたちの意見が反映されたら良いと思う。 ・子どもが住みたいまちにするには、子どもから話を聞くべきである。その内容と合致するような場所であれば、住みたいと思ってもらえるのではないかな。 ・貧困についての記述がないことが気になる。子どもの貧困も話題になっている。 ・少子高齢化対策は重要である。
<p>基本施策5 安心して子供を産み育てるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての真っ最中だと市の取組を知らないし、知る時間も無い。 ・児童館が減っているというのも気になる。
<p>基本施策6 子どもの学びや生きる力を育むために</p>	<ul style="list-style-type: none"> 《教育》 ・ただ教えて覚えさせるという教育になってきていると感じる。それでは子どものための教育にはならない。 ・子どもひとりひとりの力を活かすような教育をするべきである。 ・お互いの疑問や、「いいな」と思う点を共有して話し合うことが重要。 ・お互いの「違い」を広げて話し合うことが子どもの教育にとって必要である。
<p>基本施策7 人と地域がつながり安心して暮らすために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・坂道を歩く辛さなど、年とともに今まで見えなかった困難や不便さが見えてきた。高齢者の実情をわかってほしい。 ・高齢者を大切にすることは基本目標1に繋がるのではないかなと思っているので、強調してほしい。
<p>基本施策8 いつまでも健康で元気に暮らすために</p>	<ul style="list-style-type: none"> 《健康》 ・もっと市民の健康を守るような取組が必要。高齢者も今後より増加する。健康診断が充実すると良い。 ・健康応援都市としての取組をしてきたので、その部分も打ち出してほしい。
<p>基本施策9 暮らしの中で身近にみどりを感ずるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりを巡る散歩コースを実際に歩いてみた。暗渠を巡るコースもある。区部に比べると、2～3度涼しくなるし、みどりもある。住むには都だと感じている。
<p>基本施策10 環境に配慮した持続可能な社会を構築するために</p>	<ul style="list-style-type: none"> 《環境》 ・SDGsは人ベースでつくるもの。 ・2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、市としてどう動くのか具体的に知りたい。 ・取組に対する市としての本気度が求められている。 ・多摩地域の中で先頭を走る存在になってほしい。 ・環境が一番大事であるため、緑の保全是取り組んでほしい。指定の口座に市民が預金（寄付）して、そのお金で土地の購入や環境の保全をする取組を実施してはどうか。他市事例も参考にしてほしい。

分類	意見
<p>基本施策 11 快適で魅力的な 住みやすいまちで 暮らすために</p>	<p>《道路ネットワーク》</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路づくりがなかなか進まない。しっかり進めてほしい。 <p>《交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧市同士の行き来がしやすい交通の整備が必要だと感じる。 交通の便が悪いため、田無と芝久保の行き来がしづらい。公民館同士での行き来がしやすいようになってほしい。 高齢者の移動手段となるバスが整備されていない。今後期待している。 <p>《空き家対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> 他自治体では、空き家を地域の居場所にするための助成がある。 <p>《防災》</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害対策のマイタイムラインが各学校に配られたが、それっきりなのでその後の教育、フォローまでしっかりとしてほしい。 市として何かに取り組んでも、その後がわからない。例えば、下水道パンフレットが作られても担当課に置いてあるだけで、一般市民の目には入らない。 <p>《防犯》</p> <ul style="list-style-type: none"> 西東京市は特殊詐欺の数がワーストなので、対策を強化するべきである。 録音装置の設置に市から補助金が出ると良い。録音装置が貸出後に壊れてしまったので、フォローをしっかりとしてほしい。 固定電話に相手の名前が出ると良い。 振り込め詐欺について、市や警察は対策をしてはいるけれど意味はあるのか。）
<p>本施策 13 産業が活性化して 活力のあるまちに なるために</p>	<ul style="list-style-type: none"> フラワー通りなど、そのまちに住んでいる人が過ごせるような身近な商店街があるとよい。 大きい企業が昔に比べてなくなっている。企業誘致も必要だと思う。
<p>基本施策 14 にぎわいのある魅力的な まちになるために</p>	<p>《地域資源》</p> <ul style="list-style-type: none"> 東大農場で子どもがチャレンジ、体験できるイベントがあると良い。 企業にとってはCSR（企業の社会的責任）活動になるため、企業にも参加してもらうのが良い。 家庭菜園、畑、水路（鯉がいる）等の豊かな自然がある。 夏祭りをあちこちでやっている。花火が近くであがるのも楽しみにしていた。（子どもが楽しみになるもの・まち） 多摩六都科学館や小金井公園 退職後、地域に出ないと元気がなくなるような気がして、ウォーキングを始めた。歩くにはとても良い環境である。空気の良いと感じる。 <p>《情報発信・PR》</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩くコースはたくさんあって良いが、それは住んでいる人向けであり、市外へのPRとするには弱いかもしれない。 西東京市はニュースに取り上げられることが少ないのでもっと発信をする必要がある。 ブランドによる他自治体との差別化が必要である。 市の魅力がこれ！となかなか言えない。PR親善大使を活用してPRしてもらおうと違ってくるのではないか。 大学の友人と話していると、西東京市ってどこ？と言われる。 市外にアピールするには、東大農場、いこいの森、下野谷遺跡などをアピールすると良いのではないか。
<p>エリア(圏域)に おける取組の推進</p>	<p>《エリア設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去には小学校単位でエリアを考えていたかと思うが、今回はより広域で、ということか。 10年前は小学校単位のエリア設定だった。それくらい細かいと地域の課題も同じでつながりやすかった。 <p>《機能》</p> <ul style="list-style-type: none"> 困っていても、それを発信できない人はいるので、そのような人が気軽に相談できるような仕組みがあると良い。

分類	意見
<p>エリア(圏域)における取組の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行く感覚で相談に行けると良いと思った。キッチンカーみたいに、相談できる人が来てくれるというのも良いと思う。 ・学校は地域のための機能としてどの範囲まで担うのか。 ・エリアに関わる人をコーディネートする必要がある。 ・PTAや地域の人だけではどうにもならない。市が地域コーディネーターとして育てる必要がある。 ・エリアの仕組みを実現させるためにはコーディネート能力が必要である。 ・「場」に色々な人が参画するプログラムをつくるのが良い。これに関してはエリアが最適である。 ・情報を伝えることで、地域の団体や人をつなぐことができる。 <p>《既存のコミュニティ・活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に4つの圏域という考え方があるため、その関係性が複雑になってしまうことが懸念される。 ・民生委員とエリアの関係がどうなっていくのか気になる。 ・ゆめこらぼの登録団体数は140~150ほどで、登録していない団体も含めると約200団体が市内で活動している。エリアに関する取組の際、それらの団体の人達に関わってもらってはどうか。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が自発的に動いていく必要がある。 ・「学校を核に」というのは気になる。 ・地域課題を解決する仕組みとは、どのようなものなのか分からない。 ・教育(学校)には地域によってバラつきがあるので、そのことを認識して取組を進めるべきである。 ・エリアの取組が上手くいくかどうかは市の姿勢にかかっている。エリアの取組に期待している人も多いので、本気で取り組もうという市姿勢が見られれば、皆協力してくれると思う。自分も協力したい。 ・学校を優先的に建て直していくことがわかった。そして、地域の方が学校を活用していける事がわかってそこは良かった。 ・最近では地域で活動できる人は少ない。 ・運動会や文化祭などのイベントには色々な人が集まる。 ・災害時にも中学校区を基本に動くことになるのかわからない。 ・災害時の避難場所は小中学校である。 ・エリアに関する取組を進めるための布石として、学校のトイレ改修などが既に実施されている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧田無、旧保谷のエリアに住んでいる方は、それぞれの地域にほとんど行ったことが無いのではないかな。 ・同年代の人たちが少ないと感じる。市の地盤がしっかりしていれば、流出もしないのではないかな。 ・環境にやさしいまち、障害者にやさしいまち、ジェンダー平等なまちになることが必要。

西東京市第3次総合計画の策定を進めています



令和6年度から令和15年度を計画期間（10年間）とする第3次総合計画の策定を進めており、この度、「中間のまとめ」ができましたので、皆様にご紹介します。

策定の趣旨

西東京市第3次基本構想は、新市誕生からのまちづくりを踏まえつつ、次の10年の目指すべき将来像を描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を示すものです。

本市では平成29年に人口が20万人を超え、人口増加を続けていましたが、全国的な傾向に見られるように、今後緩やかに人口減少に転じることが予測されています。また、少子高齢化による人口構造の変化は着実に進行しており、将来的には65歳以上の高齢者の割合が3割を超える見込みです。

一方で、近年の自然災害の頻発・激甚化、地球規模の環境問題の深刻化や、デジタル社会の進展、テレワーク等による働き方の変化など、多様化する社会経済情勢等に的確に対応する必要があります。また、高齢化等に伴う社会保障関係経費の増加や公共施設等の社会資本の老朽化への対応等、今後の行政需要、財政負担の増大は避けられない状況が予測されます。

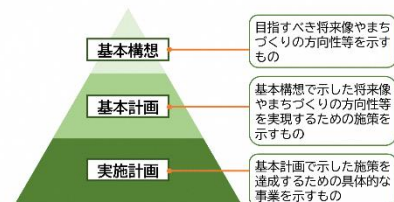
そうした状況においても、本市が将来にわたって発展し、持続可能で自立した自治体となるためには、だれ一人取り残さない社会の実現を目指した国際目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の理念を念頭に置きつつ、一人ひとりが「このまちに住んでよかった」「このまちに住み続けたい」と思えるまちを創り、次世代に引き継いでいくことが必要です。

西東京市第3次基本構想の策定にあたっては、市民意識調査や西東京市のミライを語るシンポジウム、まちづくりワークショップなどを通じて、西東京市の将来を担う子ども・若者をはじめとした、多くの市民が関わり、一緒に作り上げてきました。

そして、市民とともに整理したこれからのまちづくりに求められる6つの基本的な視点を礎として、まちづくりを総合的かつ計画的に進めるため、基本構想を行政運営における市の長期的なビジョンとして位置づけ、「西東京市第3次基本構想」を策定します。

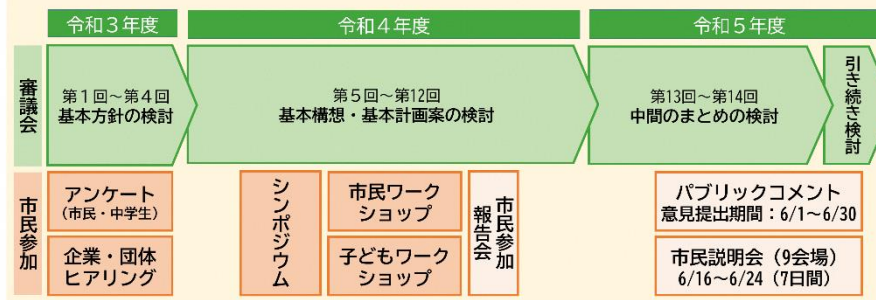
総合計画とは

総合計画は、市の最上位計画で、まちづくりの基本となる計画です。基本構想、基本計画、実施計画で構成されます。



市民の関わり（策定経過）

市民意識調査や西東京市のミライを語るシンポジウム、子ども・市民ワークショップなどを通じて、西東京市の将来を担う子ども・若者をはじめとした、多くの市民が関わり、一緒に作り上げてきました。



市民意識調査

（令和3年11～12月）

【対象】 18歳以上の市民5,000人
【アンケート内容】 市への愛着度、日ごろの住み心地、市の現在のイメージと暮らしたいまちのイメージなど

中学生まちづくりアンケート

（令和3年12月）

【対象】 市内公立中学校（9校）2年生 1,374人
【アンケート内容】 市への愛着度、市の将来の姿（10年後どんなまちになってほしいか）など

企業・団体ヒアリング

（令和4年2～3月）

【対象】 市内の企業・団体ヒアリング 42団体
アンケート協力 18団体
【アンケート・ヒアリング内容】 市の魅力・誇れるところ、まちづくりのアイデアなど

西東京市のミライを語るシンポジウム

（令和4年7月）

【参加者】 会場参加者 72名
YouTubeでのライブ配信を実施
ライブ配信視聴回数 316回
【内容】 パネルディスカッションや市長と若者のトークなど

子どもワークショップ

（令和4年7～8月）

【参加者】 小学5年生から中学3年生 10名
【内容】 SDGs、ディスカバーウォーク、市のクイズ、グループワークで検討、発表

市民ワークショップ

《会場＆オンライン》
（令和4年8～9月）

【参加者】 市内在住、在勤、在学の高校生以上の方延べ71名
【内容】 市が目指すべき姿（将来像）やまちづくりの方向性、課題解決に向けた取組アイデアなどへの意見

基本理念（わたしたちの望み）

ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京

これからもこのまちに暮らすわたしたちは、これまで大切にしてきた「やさしさ」や「ふれあい」を継承しつつ、身近に残る豊かな自然環境や歴史や文化芸術、安らぎを感じられる落ち着いた住環境を守り、だれもが住み続けたいと思える西東京市であることを願います。

一方、わたしたちの西東京市を取り巻く社会経済情勢はめまぐるしく変わりつつあります。将来にわたり市民が満足できる西東京市を創り上げるために、市民、市民活動団体、事業者や行政等のさまざまな主体がともに課題に向き合い、変化や危機に対して柔軟に対応していくことが求められています。

そのため、わたしたち一人ひとりが、西東京市の未来を「自分ごと」として捉え、主体的にまちづくりに関わり、責任を持って次世代へとつないでいく必要があると考えています。

このような想いから、第3次基本構想においては、「**ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京**」をわたしたちの望みとして、基本理念に掲げます。

ともに

まちづくりに関わるさまざまな主体が、手を携えて協力している様子を表しています。個の思いや力だけでなく、それぞれの立場や経験を活かし、協働することで、より多様化・複雑化する課題に対応していくことができます。

みらいにつなぐ

これまで守り育んできた西東京市の良さを次世代に残していくことに加えて、さまざまな主体による取組が次世代にも引き継がれるよう、未来を担う子どもにまちづくりのバトンを渡していくことを表しています。

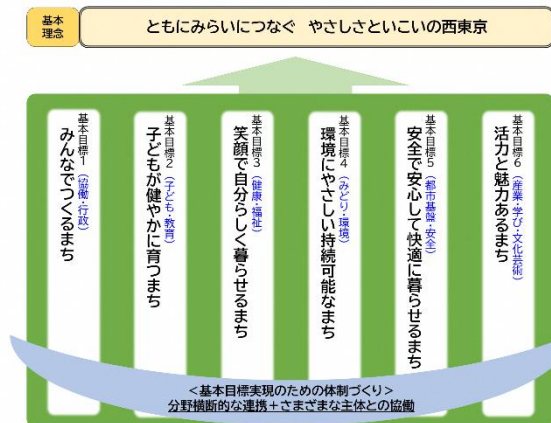
やさしさ

思いやりや助け合いの気持ちなど人のやさしさや温かさだけでなく、一人ひとりが認められ大事にされる社会、地球環境への配慮ある行動、だれ一人取り残さない持続可能な社会など、深く多様な意味が込められています。

いこい

市の中心部に位置する西東京いこいの森公園やマスコットキャラクター「いこいな」などに象徴されるように、わたしたちが大切に育んできた言葉です。都心に近いながらも、身近にみどりを感じられる環境や落ち着いた住環境の中で、心や体が休まり、人々の交流が生まれるいこいの場をこれからも守り育てていくことを表しています。

基本目標（目指すべき将来像）



「ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京」という基本理念をかなえるために、めざすまちの姿として、6つの基本目標（目指すべき将来像）掲げます。また、予測を超えた社会経済情勢の変化等に対し、柔軟に対応するために必要な「基本目標実現のための体制づくり」を示します。



③

基本目標1 みんなでつくるまち（協働・行政）

多様化・複雑化する地域課題に取り組み、安心して暮らせるまちを創るためには、行政だけでなく、子ども・若者から高齢者までの多様な世代の市民や市民活動団体、事業者等のさまざまな主体が協力し、一人ひとりが互いに認め合い、自分らしく活躍することができる市民主体のまちづくりを進めていくことが大切です。

行政は、限られた行政資源（人員・財源等）の中で、行政サービスの維持・向上を図るために、行財政改革や社会の変化に柔軟に対応できる組織づくりを推進し、持続可能で自立的な自治体経営を確立することが大切です。

そのため、公共施設の再編等による人々が集える空間の創出や、デジタル技術の活用による行政サービスの向上などを進めるとともに、さまざまな主体が積極的にまちづくりに参加できる機会の充実や、他者を尊重する意識の醸成などに取り組み、ともに地域を創る「**みんなでつくるまち**」をめざします。

まちづくりの課題

■ 地域課題の解決に向けた協働のまちづくりの推進

- ・価値観の多様化やライフスタイルの変化などにより、地域の課題も多様化・複雑化してきており、行政だけではすべての課題に対応することが難しい状況です。
- ・地域コミュニティの担い手の高齢化・固定化や、コミュニティの希薄化が懸念されています。
- ・市民活動団体をはじめとした地域の担い手の育成、若い世代の参画機会の創出・周知、公民連携の推進など、地域に関わるすべての人たちが、地域課題を「自分ごと」として捉え、協働してまちづくりを進める必要があります。
- ・世界ではいまだ紛争問題が続いており、人権尊重と平和の大切さとともに、一人ひとりが相互に理解を深め、人と人がつながり、地域における助け合いの重要性が再認識されています。
- ・次世代を担う子どもや若者が自ら平和について考え、平和を尊ぶ意識の醸成を図ることが求められています。

■ 持続可能な行政運営の推進

- ・税収入については、回復の兆しが見られるものの、人々の生活様式の変化や物価高騰等による企業や雇用へ与える影響など、先行きが不透明な状況となっています。
- ・医療や介護などの社会保障関係経費の増大や多様化・複雑化する行政需要への対応など、財政の硬直化が危惧されています。
- ・限られた財源や資源をより有効活用するため、事業の優先順位や費用対効果の検証等による既存事業の見直しを図ることが必要です。また、老朽化する公共施設の再編や適切な維持管理など、持続可能で安定的な行政運営を目指した取組が必要です。
- ・多様化・複雑化する行政需要に的確に対応できる職員の育成や組織づくりが必要です。
- ・社会全体のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進に伴い、手続のオンライン化や情報システムの標準化、AI等の活用による業務効率化を図ることが必要です。

基本施策



【基本施策1】一人ひとりがいきいきと輝くまちを実現するために

多様化・複雑化する地域課題を「自分ごと」として捉え、子ども・若者を含め、さまざまな世代の市民や多様な主体が主体的にまちづくりに関われるよう、参画の機会の充実を図り、地域課題の解決に向けて取り組む協働のまちづくりを進めます。

また、市民へ積極的に情報提供するなど、自治会や町内会等への加入促進を図り、地域コミュニティの活性化に取り組めます。

【基本施策2】多様性を認め合う社会を構築するために

だれもが、人種、国籍、性別、年齢、信条、社会的身分等によって偏見や差別を受けることなく、一人ひとりの人権を尊重し、互いを認め合い、公平な扱いのもと、自分らしく個性と能力を発揮できる社会の実現に向けた取組を進めます。

そして、これまでに築き上げた平和な時代がこれからも続くよう、若い世代とともに平和について考える機会を設けるなど、意識醸成を図っていきます。

【基本施策3】市民とともに持続発展する自治体であるために

効果的で分かりやすい情報発信に努めるとともに、市民と行政との双方向のコミュニケーションを高めることで、行政の透明性の確保と開かれた市政を推進します。

また、AIやRPA等のデジタル技術の活用による行政サービスの向上や行政の業務効率化を進めるとともに、だれ一人取り残さないデジタル社会の実現に取り組めます。

そして、柔軟な組織づくりや長期的な視点で、多岐にわたる行政課題に対応できる職員の育成に取り組むとともに、行財政改革や公共施設の再編を推進するなど持続可能で自立的な自治体経営をめざします。

④

基本目標2 子どもが健やかに育つまち (子ども・教育)

次世代を担う子ども一人ひとりが輝き、健やかに成長していくためには、個性が尊重され、社会の変化に応じた生きる力を身につけることができる環境づくりが大切です。

また、安心して子どもを産み育てることができ、だれ一人取り残さない社会を創るためには、家庭の状況に応じた伴走型の支援、困難を抱える子どもを早期に発見する仕組み、地域全体で子育て家庭を見守る体制づくりが必要です。

そのため、子どもの権利の尊重や居場所づくり、気軽に相談できる場の充実、子どもの発達段階等に応じた妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築のほか、児童・生徒の個に応じた学校教育の充実等を図ることで、愛着を持っていつまでも住み続けたいと思える「**子どもが健やかに育つまち**」をめざします。

まちづくりの課題

■ 子どもにやさしいまちの実現

- ・子どもを取り巻く社会問題は、貧困、虐待、不登校、ヤングケアラー、いじめなど深刻となっています。
- ・子育て環境については、単身世帯や共働き世帯、要介護者のいる世帯の増加など、家族の形が多様化してきています。
- ・教育の現場では、国のGIGAスクール構想の推進による学び方の変化、学校が果たすセーフティネット機能の再認識など、学びの環境が大きく変化してきています。
- ・子どもをだれ一人取り残さない社会を構築することが求められています。
- ・子どもが意見を表明する機会や多様な社会活動に参画する機会を充実するとともに、子どもが気軽に相談できる環境づくりや、子どもが安心して過ごし、遊び、学び、活動できる居場所づくりに取り組み、地域全体で子育て家庭を見守り支えていく仕組みづくりを進めることが必要です。
- ・子ども一人ひとりが自らの希望や意思に基づいて選択し、人生をより豊かにしていくことができるよう、子どもの生きる力を育むことが重要です。
- ・いきいきと楽しく子育てを続けられるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を受けられる環境整備が必要です。
- ・学校教育とともに、学校と地域の連携による教育環境の向上や活力ある学校づくりを進めていくことが必要です。



⑤

基本目標3 笑顔で自分らしく暮らせるまち (健康・福祉)

だれもが住み慣れた地域で健康で元気に暮らすためには、年齢や障害の有無等にかかわらず、一人ひとりが生きがいを感じながら、自分らしくいきいきと暮らすことが大切です。また、だれもが「支え手」にも「受け手」にもなり得ることから、子ども・若者から高齢者までの多様な世代が地域の中でつながり、それぞれが抱える多様な生活課題の解決に向けて取り組むことが重要です。

そのため、すべての人が「支え手」「受け手」という関係性を超えて、地域の中で人と人、人と資源が世代や分野を超えて支え合い、支援の必要な人が適切な支援を安心して受けられるための仕組みづくりを進めるとともに、健康づくりや生きがいづくりに取り組み、だれもが住み慣れた地域でいつまでも安心して「**笑顔で自分らしく暮らせるまち**」をめざします。

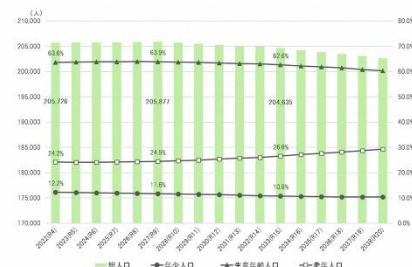
まちづくりの課題

■ 地域共生社会と「健康」応援都市の実現

- ・今後10年間で少子高齢化が確実に進行していくものと考えられます。

	令和4 (2022) 年	令和15 (2033) 年
14歳以下の年少人口	25,109人 (12.2%)	22,037人 (10.8%)
65歳以上の老年人口	49,710人 (24.2%)	54,406人 (26.6%)

※〔 〕は総人口に占める割合を示す。



- ・高齢になってもいつまでも元気に暮らせるまちを目指し、地域共生社会の実現に取り組むことが必要です。
- ・地域共生社会の実現に向けて、市民の理解と関心を高めるとともに、だれもがその人に合った支援を受けられる包括的な支援体制を構築することが必要です。
- ・住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、人と人、人と地域がつながり、だれもが希望に応じて居場所と役割があり、自分らしく活躍できる地域づくりが必要です。
- ・いつまでも元気に安心して暮らすために、一人ひとりのライフステージに応じた健康づくりなどに取り組んでいくことが重要です。

基本施策

【基本施策7】 人と地域がつながり安心して暮らすために

年齢や障害の有無にかかわらず、だれもがいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域全体で見守り支え合える地域共生社会の実現を進めます。

また、介護、子育て、生活困窮などの分野別の相談体制では解決に結びつかない暮らしの困りごとに包括的に対応する支援体制の構築に取り組めます。

【基本施策8】 いつまでも健康で元気に暮らすために

一人ひとりが心身の健康を保つために、ライフステージに応じた主体的な健康づくりができるよう支援するとともに、地域全体で市民の健康を支える仕組みづくりを推進します。

また、だれもがそれぞれの経験やスキルを活かし、地域コミュニティの一員としていきいきと自分らしく活躍できるように、就労や社会参加の機会の充実を図ります。



<西東京しゃきしゃき体操>

<フレイル予防出張講座>

⑥

基本目標4 環境にやさしい持続可能なまち (みどり・環境)

本市には、農地、雑木林、屋敷林など、みどりを身近に感じることのできる武蔵野の面影が残っており、みどりと都市が共存する住環境は魅力の一つです。

これらのみどりは、暑さをやわらげ、暮らしに安らぎを与えるとともに、自然環境が有する多面的な機能を持つグリーンインフラとして活用することで、地球温暖化の緩和や浸水対策、生き物の生息・生育空間の提供などが期待できます。

また、環境問題の深刻化に伴って地球温暖化を起因とする気象災害が発生していることから、一人ひとりが地球規模の環境問題に向き合い、省エネルギーに取り組むなど、環境に配慮した行動が大切です。

そのため、さまざまな主体が協働してみどりの保全・活用に取り組むとともに、次世代により良い環境を残していけるよう、環境への負荷が少ない脱炭素社会や資源循環型社会の実現に向けた「**環境にやさしい持続可能なまち**」をめざします。

まちづくりの課題

■ みどりの保全と脱炭素社会への取組の強化

- ・宅地化が進み、みどりが減少傾向にあります。
- ・公園に求める市民ニーズが多様化しています。
- ・公園等の維持管理に対する人材や財源の確保が必要です。
- ・世代を問わず、環境に対する一人ひとりの環境への配慮と行動が大切です。
- ・経済活動や日常生活に伴い排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの抑制が必要です。
- ・一人ひとりが意識をして、食品ロスを含め、ごみの減量に取り組む必要があります。



<下保谷西四丁目特別緑地保全地区>

基本施策

【基本施策9】

暮らしの中で身近にみどりをを感じるために

民間活力やボランティア等のさまざまな主体と協働し、公園の維持管理や地域にあわせた特徴のある公園づくり、農地保全・活用等により、身近にみどりが感じられるまちづくりに取り組みます。

また、街路空間や公共施設等の緑化に努め、みどりのネットワークを形成するとともに、グリーンインフラの活用により、地球温暖化の緩和や浸水対策などの防災力・減災力の向上を図ります。



<西東京いこいの森公園>

【基本施策10】

環境に配慮した持続可能な社会を構築するために

次世代により良い環境を残せるよう、環境への意識醸成のための環境教育や普及啓発、温室効果ガスの削減など、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組を進めます。

また、良好な生活環境を維持するため、一人ひとりが環境に配慮し、4R（リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ）の推進、ごみや食品ロスの削減、まちの環境美化に取り組むことで、環境にやさしい持続可能な循環型社会を構築していきます。



⑦

基本目標5 安全で安心して快適に暮らせるまち (都市基盤・安全)

都市と自然環境との調和のとれた良好な住環境を形成していくためには、安全で快適な道路の整備や交通環境の充実等の都市基盤の整備を進めていくことが大切です。

また、近い将来、発生が危惧される大規模地震や集中豪雨などの風水害による災害リスク、さらには、身近で発生し得る犯罪や交通事故など、わたしたちの安全・安心を脅かすリスクへの対策が必要です。

そのため、適切な土地利用の誘導、地域の特徴を活かしたまちづくりや駅周辺の拠点空間の整備、歩行者や自転車、自動車が安全で快適に通行できる幹線道路の整備、駅周辺への利便性の高い道路などの交通ネットワークの形成を推進していきます。

また、行政だけでなく、市民や市民活動団体、事業者等のさまざまな主体が一体となって「自助」、「共助」、「公助」の考えのもと、防災、防犯対策に取り組むことで、「**安全で安心して快適に暮らせるまち**」をめざします。

まちづくりの課題

■ リスクに備えた都市基盤の整備と防犯力の強化

- ・渋滞の解消や生活道路への通過車両の流入抑制を図るための体系的な道路ネットワークの形成が必要です。
- ・交通の円滑化、快適な歩行空間の確保や延焼遮断帯など、多様な機能を持つ都市計画道路の整備を進めてきましたが、未着手の都市計画道路も残っています。
- ・都市計画道路の整備とともに、連続立体交差化事業の推進が必要です。
- ・老朽化が進む都市基盤の計画的な更新や長寿命化に取り組む必要があります。
- ・空き家対策を含め、だれもが安心して暮らせるまちづくりが必要です。
- ・パリアフリーの促進やユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進が必要です。
- ・近年の自然災害の頻発・激甚化、大規模な地震が発生するリスクの高まりなどから、防災・減災に関する取組は喫緊の課題となっています。
- ・近年では犯罪の手法が巧妙化・多様化し、だれもが被害者になり得ます。

基本施策

【基本施策11】

快適で魅力的な住みやすいまちで暮らすために

みどりが感じられる魅力ある住環境を確保するとともに、地域の特色を活かしたにぎわいと交流があるまちづくりにめざします。

また、安全で歩きやすい道路ネットワークと利便性の高い交通ネットワークの整備を推進するとともに、老朽化が進む都市基盤の計画的な更新や長寿命化、ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりに取り組みます。



<総合防災訓練の様子>

【基本施策12】

安全で安心して暮らすために

雨水溢水対策や耐震化等を推進するとともに、市民、行政等のさまざまな主体が日頃から防災意識を高めつつ、地域における災害時の協力体制を強化することで、災害に強いまちづくりにめざします。

また、日々を安全に安心して過ごせるよう、警察などと連携し、防犯や消費者トラブル等の防止に努めるとともに、交通事故の抑制や交通マナーの向上等に取り組んでいきます。

⑧

基本目標6 活力と魅力あるまち（産業・学び・文化芸術）

地域に根ざした産業振興を図るためには、市民や事業者がともに地域で産業を生み・育てていくとともに、持続可能な経営を支える仕組みづくりが大切です。

また、人々の交流やにぎわいにより地域全体を活性化するためには、いくつになっても学ぶことができ、身近なところで文化芸術などに触れ、気軽に体を動かすことができる環境づくりが必要です。

そのため、経営基盤の強化や起業・創業支援の充実、商店街の活性化の支援を図るとともに、地産地消や農地保全への取組を推進します。また、学習や学び直しをする機会の充実、文化芸術の振興、スポーツ・レクリエーション活動に気軽に取り組める環境づくりなど、一人ひとりが生きがいを持って暮らしを楽しめる、まちもひとも元気になる「**活力と魅力あるまち**」をめざします。

まちづくりの課題

■ 地域に根ざした産業の振興と地域経済の活性化

- 人々の生活様式の変化や物価高騰の影響などにより、消費者意識や行動にも大きく変化が見られ、本市の地域産業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。
- 市民の農業・農地への関心が高まる一方、後継者不足などにより、市内の農地や農業者数は減少しています。
- 商店の廃業などによる空き店舗の増加や宅地化、近隣地域への大型店舗の進出など、商店街を取り巻く状況は厳しくなっています。
- 地域のにぎわいの創出や活性化を図るためには、地域の特色を活かした魅力ある商店街づくりへの支援が必要です。
- 中小企業が今後も事業を継続するために、経営環境の向上のための支援や市内外へのアピール、事業者間のマッチングなどが求められています。
- 地域に根ざした産業の振興、新たな産業や人材の育成を目指し、事業の継続、起業・創業支援の取組の充実を図るとともに、多様な働き方を可能とする環境の整備が必要です。

■ まちのにぎわいづくりと地域資源の魅力発信の強化

- 地域資源として、下野谷遺跡などの文化財や屋敷林の景観、東大生態調和農学機構の農場や演習林等だけではなく、NPOや市民活動、スポーツや芸能活動に関わる人など、豊かな人材をあわせ持っています。
- さまざまな情報発信方法を使った積極的なシティプロモーションを推進していくことが必要です。
- 生涯にわたって健康で生きがいのある人生を送るために、多様な学習機会や文化芸術、スポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりが必要です。
- 人生100年時代においては、地域で学び続けられる環境や学び直しの機会が求められています。

基本施策

【基本施策13】産業が活性化して活力のあるまちになるために

地域にヒト・モノ・カネ・情報の好循環を生み出すために、創業支援や創業後の事業継続支援の充実を図ります。

また、空き店舗等の資源の活用や一店逸品事業など地域の購買力向上を促進するとともに、事業者間の交流やネットワークづくり、産学公の連携促進、農産物のPRや商店街の魅力づくりなど、市民や事業者がともに地域で産業を生み・育てるまちづくりを進めていきます。

<ハンサムManaプロジェクト>



【基本施策14】にぎわいのある魅力的なまちになるために

下野谷遺跡や屋敷林、東大生態調和農学機構の農場や演習林等だけでなく、さまざまな活動に関わる人々など、幅広く豊かな地域資源の魅力を再認識するとともに、新たな地域資源を発掘し、これらの地域資源の利活用を促進します。また、多様な情報発信方法により、積極的なシティプロモーションを行っています。

【基本施策15】多様な学びと文化芸術・スポーツが息づくために

多様化するニーズに応えられるよう、生涯学習環境の整備や主体的な学びの機会の充実に取り組みます。

また、だれもが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に取り組める環境づくりを進めるとともに、歴史や文化芸術を身近に感じられるよう、文化芸術活動の振興と文化財の保護に取り組みます。



施策体系



基本目標	基本施策	施策
基本目標1 みんなで つくるまち	基本施策1 一人ひとりがいきいきと輝くまちを実現するために	1-1 市民主体のまちづくりの推進 1-2 協働のまちづくりの推進
	基本施策2 多様性を認め合う社会を構築するために	2-1 人権と平和の尊重 2-2 多文化共生の推進 2-3 男女平等参画社会の推進
	基本施策3 市民とともに持続発展する自治体であるために	3-1 開かれた市政の推進 3-2 持続可能な自治体の経営 3-3 人にやさしいデジタル化の推進
基本目標2 子どもが 健やかに 育つまち	基本施策4 子どもがのびのびと成長するために	4-1 子どもの権利の尊重と参画の推進 4-2 子どもの育ちの支援
	基本施策5 安心して子どもを産み育てるために	5-1 子育て支援の充実 5-2 幼児教育・保育の充実
	基本施策6 子どもの学びや生きる力を育むために	6-1 学校教育の充実 6-2 学校と地域の連携による教育環境の充実
基本目標3 笑顔で 自分らしく 暮らせるまち	基本施策7 人と地域がつながり安心して暮らすために	7-1 地域福祉の推進 7-2 高齢者福祉の充実 7-3 障害者福祉の充実 7-4 社会保障制度の運営
	基本施策8 いつまでも健康で元気に暮らすために	8-1 健康づくりの推進 8-2 高齢者の社会活動や生きがいづくりの充実 8-3 障害者の社会参加の推進
	基本施策9 暮らしの中で身近にみどりを感じるために	9-1 みどりの保全・活用 9-2 みどりの空間の創出
基本目標4 環境にやさしい 持続可能なまち	基本施策10 環境に配慮した持続可能な社会を構築するために	10-1 ゼロカーボンシティの推進 10-2 循環型社会の構築 10-3 生活環境の維持
	基本施策11 快適で魅力的な住みやすいまちで暮らすために	11-1 住みやすい住環境の整備 11-2 体系的な道路ネットワークの整備 11-3 人と環境にやさしい交通環境の整備
	基本施策12 安全で安心して暮らすために	12-1 災害や地域の危機に強いまちづくりの推進 12-2 防犯・交通安全の推進
基本目標5 安全で安心して 快適に暮らせる まち	基本施策13 産業が活性化して活力のあるまちになるために	13-1 産業の振興 13-2 起業・創業支援の充実
	基本施策14 にぎわいのある魅力的なまちになるために	14-1 まちの魅力の創造
	基本施策15 多様な学びと文化芸術・スポーツが息づくために	15-1 生涯学習環境と主体的な学びの機会の充実 15-2 生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進 15-3 文化芸術の振興と文化財の保護

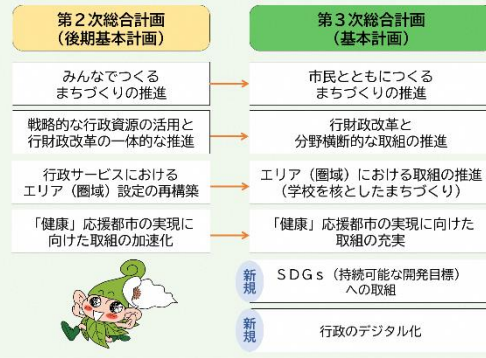
計画を推進するための考え方

第3次総合計画では、第2次総合計画（後期基本計画）で示した4つの基本的な考え方を踏まえつつ、社会経済情勢の変化や新たな課題に対応し、計画を進めるために、6つの基本的な考え方を整理しました。

これらの考え方を全庁的に共有し、本計画に位置づけた各施策や事業を推進していきます。

エリア（圏域）における取組の推進（学校を核としたまちづくり）

次のパネル（12）をご覧ください。



市民とともにつくるまちづくりの推進

基本理念の「ともにみらいにつなぐ」のフレーズにもあるように、これからのまちづくりには、市民と行政が協働し、さまざまな課題に向き合い、次世代に向けたまちづくりをともに進めていくことが必要です。また、市民と職員一人ひとりが、西東京市の未来を「自分ごと」として捉え、主体的にまちづくりに関わっていくことが重要です。

本計画の推進にあたっては、「市民」と「行政」が互いに地域づくりの目標に向かって対等な協力関係を築き、更なる協働のまちづくりに取り組みます。

行財政改革と分野横断的な取組の推進

基本構想に掲げた「基本理念」や「基本目標」を実現するためには、市民ニーズや社会経済情勢、環境の変化を的確に把握した上で、施策・事業による取組成果を測りながら、政策課題の解決に向けて効果の高い施策・事業に対し、戦略的に行政資源（予算や人員）を配分することが必要です。そのため、持続可能で自立的な自治体経営の確立に向けて、「行財政改革大綱」に基づき、引き続き、行財政改革の取組を着実に推進します。

また、本市が重点的に取り組んでいる「健康で元気なまちの実現」「子どもにやさしいまちの実現」「地域共生社会の実現」「ゼロカーボンシティの推進」「都市農地等の保全・活用」などは、分野横断的なテーマであり、庁内各部署が分野を超えて組織横断的に連携して取り組むことが必要です。社会経済情勢が変化し、行政需要が多様化・複雑化する中において、分野ごとに掲げた基本目標を実現するための体制づくりを進めます。

「健康」応援都市の実現に向けた取組の充実

本市は、平成23年に「健康都市宣言」を、平成26年に「健康都市連合」に加盟し、こころやからだの健康はもとより、社会や経済、居住や教育といった生活環境も健康水準を向上させるための要素として捉え、地域やまち全体の「健康」を達成するための「健康」応援都市の実現を目指して取組を進めてきました。引き続き、本計画に位置づけるすべての施策・事業について、健康水準の向上という観点から推進し、「健康」応援都市の実現に向けた取組を充実させていきます。

SDGs（持続可能な開発目標）への取組

SDGs（持続可能な開発目標）は、格差や貧困、気候変動をはじめ、人々の生産や消費のあり方にまで言及した、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールを提示するものです。

本計画の柱となる6つの基本目標は、SDGsの「誰一人取り残さず、豊かで活力ある持続的な未来をつくる」という考え方に重なっています。そのため、本計画を推進することは、SDGsの達成に向けた取組にも資することとなります。

本市においても、地方公共団体として、あらゆる施策の推進にあたりSDGsを意識して取り組んでいきます。

行政のデジタル化

国では、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、デジタル技術の活用によって、地域の個性を活かしながら地域課題の解決や魅力向上の取組を加速化・深化することとしています。

デジタル技術の進展を踏まえ、地域の個性や魅力を活かした地域づくりを進めるために、これまでの地方創生の取組を踏まえつつ、デジタル技術の活用といった視点を加味した、新たな「西東京市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、本計画と一体的に取組を推進します。

11

エリア（圏域）における取組の推進（学校を核としたまちづくり）

少子高齢化の進展や急激な社会状況の変化及びライフスタイル・価値観の多様化などに伴い、地域を取り巻く状況は変化しており、地域の担い手の不足や高齢化、コミュニティの希薄化やにぎわいの喪失、地域課題の多様化・複雑化など、さまざまな課題が生じています。

本市における地域コミュニティには、地域との関係性が強い自治会・町内会などの地縁組織や、特定の目的により活動している市民活動団体、また、さまざまな団体や地域住民が連携して活動する「地域協力ネットワーク」など、多様なコミュニティが存在しており、それぞれの特徴を活かした地域づくりが進められています。

一方で、多様化・複雑化する地域課題に対しては、行政が重層的に支援をすることに加えて、行政と地域が連携し、地域の課題を地域で解決できる仕組みづくりを推進することが重要です。その際は、有事が起きてからではなく、日頃から地域において住民同士が支援し合える関係づくり（顔の見える関係づくり）が重要であり、だれもが地域とのつながりの中で、希望に応じて居場所と役割があり、一人ひとりが活躍できるまちづくりを進めていくことが必要となります。

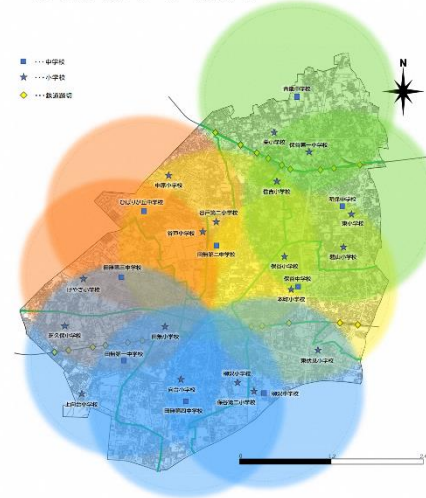
「顔の見える関係づくり」は、「日頃の関係性」から生まれるものであり、日頃から住民同士が関わる「きっかけ」が重要です。特に、新たな担い手世代（「子育て・働き盛り」の現役世代）や若者世代がどのように地域と関わりを持てるかが重要です。本市では、「学校が地域のキーステーション」であるとの認識のもと、学校を核としたまちづくりが進められており、学校には多世代の住民が集う「きっかけ」があります。

こうした視点を踏まえ、歩いて行ける距離や公共施設の配置バランス等を考慮し、中学校を中心とした半径1,200m程度の範囲を「中学校区」としてエリア（圏域）に位置づけ、9つの中学校区を基本とした地域づくりを進めていきます。

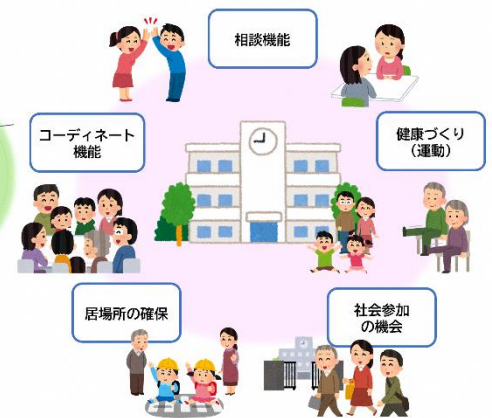
地域づくりにあたっては、年齢や属性等を問わない身近な相談窓口の設置による「相談機能の強化」、コミュニティの形成・活性化のための「コーディネート機能の充実」、多様な世代や属性の人が集い、交流するための「年齢を問わない居場所の確保」、生きがいやつながりづくりのための「社会参加の機会創出」、心と体のための「健康づくり（運動）」といった行政サービス機能について、中学校区で展開していきます。

そのため、相談窓口の設置やコーディネーターの配置、交流スペースの整備や健康づくり、運動を行うことができる場所の確保などを行い、既存の行政サービスを活かし補完しつつ、既存のコミュニティやネットワークとも連携、協力することで、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。

〈中学校区のイメージ（参考）〉



〈中学校区における行政サービス機能〉



12

西東京市第3次総合計画・庁舎統合方針の見直し 市民説明会(アンケート)

○アンケートは説明会の出口で回収します。

○アンケート、アイデアボードにご協力いただいた方に「いいいな」グッズをおひとつ差し上げます。

■ 年齢 (○をお願いします) ～10～ 15～ 20～ 25～ 30～ 40～ 50～ 60～ 70～ 80～ (お)

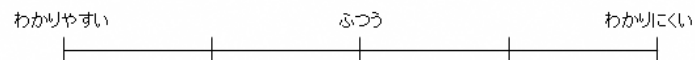
■ お住まいの地域

1. 田無町 2. 南町 3. 西原町 4. 緑町 5. 谷戸町 6. 北原町 7. 向台町 8. 芝久保町 9. 新町 10. 柳沢 11. 東伏見 12. 保谷町 13. 富士町 14. 中町 15. 東町 16. 泉町 17. 住吉町 18. ひばりが丘 19. ひばりが丘北 20. 栄町 21. 北町 22. 下保谷	丁目
23. 市外 ➡ 在勤・在学・その他()	

■ 最寄りの中学校・おおむねの距離(市内在住の方のみ)

1. 田無第一中学校 2. 保谷中学校 3. 田無第二中学校 4. ひばりが丘中学校 5. 田無第三中学校 6. 青嵐中学校 7. 柳沢中学校 8. 田無第四中学校 9. 明保中学校	徒歩 約 分
---	-----------

■ 資料のわかりやすさ (○をお願いします)



■ 興味を持ったパネル(2つまで)

- ① 策定の趣旨、総合計画とは ② 市民の関わり(策定経過)
- ③ 基本理念(わたしたちの望み)、基本目標(目指すべき将来像)
- ④ 基本目標1 みんなでつくるまち(協働・行政)
- ⑤ 基本目標2 子どもが健やかに育つまち(子ども・教育)
- ⑥ 基本目標3 笑顔で自分らしく暮らせるまち(健康・福祉)
- ⑦ 基本目標4 環境にやさしい持続可能なまち(みどり・環境)
- ⑧ 基本目標5 安全で安心して快適に暮らせるまち(都市基盤・安全)
- ⑨ 基本目標6 活力と魅力あるまち(産業・学び・文化芸術)
- ⑩ 施策体系
- ⑪ 計画を推進するための考え方
- ⑫ エリア(圏域)における取組の推進(学校を核としたまちづくり)

裏につづく

■ パネル⑩の学校を核としたまちづくりに期待することはありますか(2つまで)

1. 相談機能の強化 2. コーディネート機能の充実 3. 健康づくり(運動)の推進
4. 社会参加の機会創出 5. 年齢を問わない居場所の確保
6. その他()

■ 市民説明会をどのように知りましたか(参加のきっかけ)

1. 5月26日市報特集号 2. 市ホームページ 3. Twitter 4. LINE
5. フェイスブック 6. チラシ(市民説明会開催のお知らせ) 7. 新聞
8. その他()

■ どのような説明会であれば参加しやすいですか

1. ポスターセッション(今回の形式) 2. 講義形式の説明会 3. オンライン形式
4. ワークショップ 5. 出前講座 6. その他()

■ ご意見

(「西東京市第3次総合計画」に関すること)

(「庁舎統合方針の見直し」に関すること)

★ご協力ありがとうございました。★